

第2回 十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会概要

十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会を 1/21 に札幌で開催しました。

北海道開発局では、平成 19 年 4 月から運用を開始した十勝川千代田新水路の一部を、河川整備を進めていく上で解明すべき様々な技術的な課題に関する実験研究を行う大型模型実験水路として活用することとしています。

十勝川千代田実験水路アドバイザー委員会は、実験水路において実施する実験研究に関して、河川工学等の専門的な立場から以下に関して助言をいただくものです。

- 1) 実験研究の長期計画の策定・変更
- 2) 実験研究の評価に関すること
- 3) 活用研究者の選定に係ること

このたび、第 2 回のアドバイザー委員会を、札幌において下記の内容で開催しました。



写真-1 第2回委員会の様子

【委員会の開催日時等】

・日 時：平成 20 年 1 月 21 日 13：30～16：00

・開催場所：かでの 2.7（道民活動センター）

7F 710 会議室

第 2 回委員会は、委員 4 名（辻本委員が天候の関係で当日急遽欠席）が出席したほか、報道関係 1 社の取材と一般傍聴者 14 名の参加がありました。

天候不順で辻本委員長が急遽欠席となったため、藤間委員が代理で会議を総括することとなりました。

その後、事務局から長期計画の取りまとめの方向性、実験研究長期計画（案）、平成 19 年度予備実験結果、越水破堤実験計画の概要が説明され、活発な意見交換が行われました。

なお、委員会は公開で行われました。

十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会の委員名簿

（平成 20 年 1 月 21 日現在）

区分	氏名	所属
委員長 （欠席）	辻本 哲郎	名古屋大学大学院 工学研究科 教授
委員長 代理	藤間 聡	室蘭工業大学 工学部 教授
	山田 正	中央大学 理工学部 教授
	黒木 幹男	北海道大学大学院 工学研究科 准教授
	岡部 和憲	国土交通省北海道開発局建設部 河川計画課 課長

（敬称略）

【委員会の議題】

- (1) 実験研究長期計画について
- (2) 千代田実験水路における平成 19 年度予備実験について
- (3) 「越水破堤に対するハード・ソフト対策技術の向上」について

十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会では次のような意見が出されました。

- 観測データがどのように成果に結びつくのか、しっかり検討して実施すべき。観測技術の解明と実験のバランスをとることが大切である。
- これまで実験室で実施された 2 次元の実験結果を踏まえて、千代田の実物大の実験を実施すべき。
- 得られた成果を実務にどう活かしていくのかを研究者も行政も強く意識するような仕組みにする工夫を考えるべき。
- 「③充実した観測機器により、現象の把握が可能」とあるが、現在、設置されている機器はそれほど先進的な観測機器ではない。むしろ、先進的な観測機器を開発するという観点も必要である。
- 「行政への還元」を明瞭にさせないといけない。行政に活かす話と、技術的課題を解決するという話と両方あるが、まずは、「河川行政に活かす」ことを優先すべき。
- 破堤後の速やかな復旧を実施する際、の知見が不足している。こうした破堤後の対応もテーマとして考慮すべき。(テーマ I-1)
- 多自然工法の検討については、計画高水クラスの洪水時の課題なのか、平常時や小規模な出水対応の課題なのか、対象となる外力レベルを整理すべき。(テーマ I-2)
- 直線水路における複断面の流れは有る程度解明されている。湾曲する複断面の水路における流れが課題ではないか。(テーマ IV-8)
- 河川計画策定への貢献とあるが、もう少し具体的に記述すべき。(テーマ IV-8、テーマ IV-10)
- 水防資材の開発は、意外になされていない現状である。こうした水防資材の開発も考慮するべき。(テーマ VI-12)

今 後 の 予 定

- ◇ 今回の「十勝川千代田実験水路 アドバイザー委員会」の助言を踏まえて、十勝川千代田実験水路実験研究長期計画を取りまとめます。